

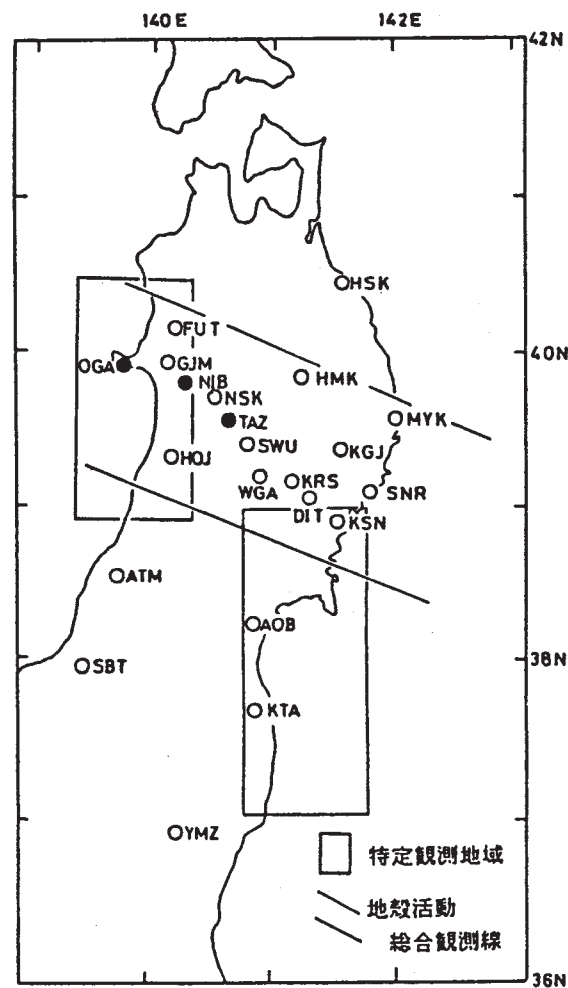
2-4 東北地方における地殻変動連続観測 — 1984年4月から1988年10月までの傾斜変化 —

Continuous Observation of Crustal Deformation in the Tohoku District
— Tilt Change for the Period from April, 1984 to October, 1988 —

東北大学 理学部

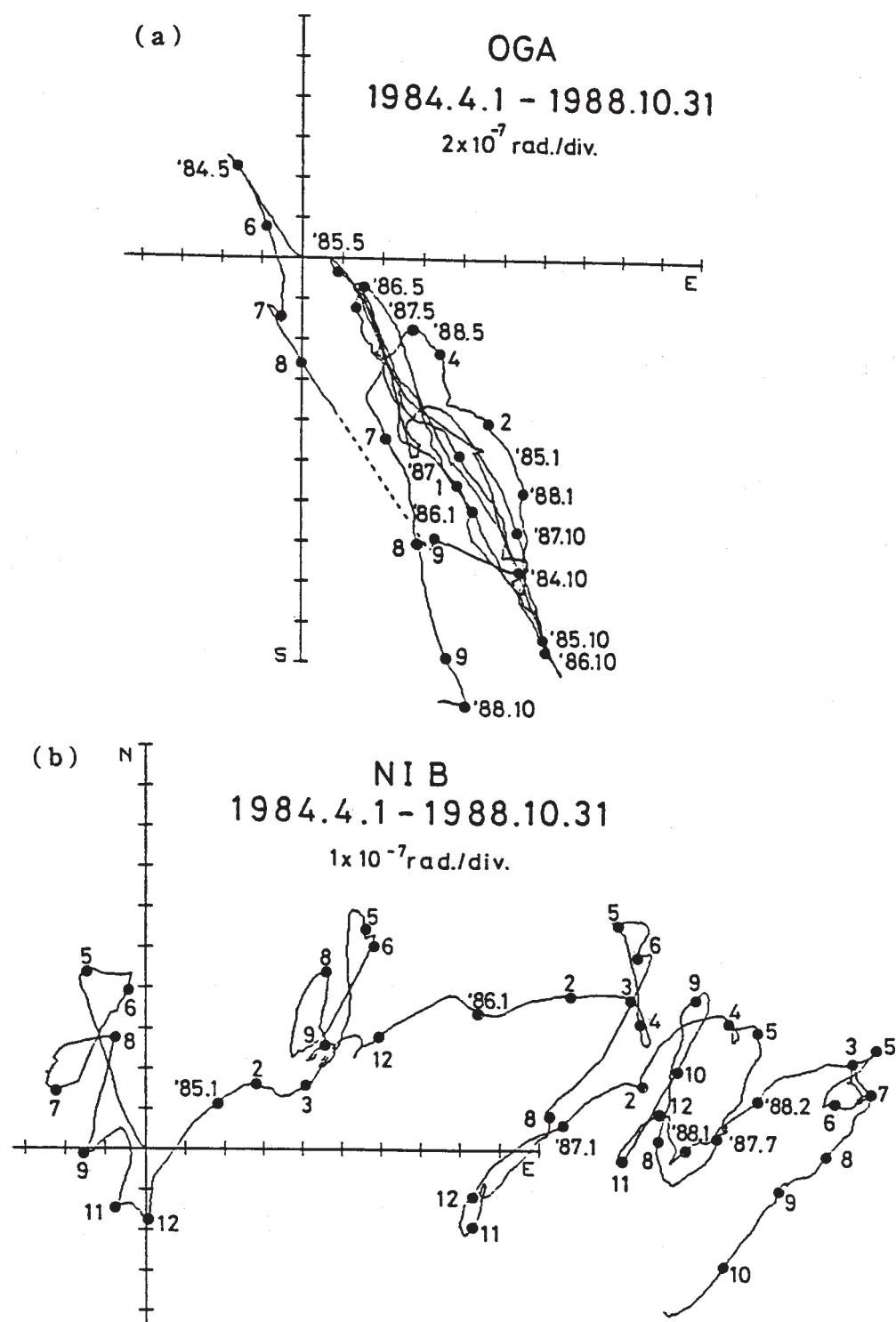
Faculty of Science, Tohoku University

東北大学が現在東北地方に展開している地殻変動連続観測網（第1図）のうち、計器長が15 m以上の水管傾斜計を有する観測点における傾斜変化を第2図に示す。期間は1984年4月から1988年10月までである。データには20日間の移動平均を施してある。この期間で特徴的なこととして、これまで殆ど年周変化のみを示していた男鹿観測点においてこれまでと若干変化の様相が変わってきたことが挙げられる。今後の推移に注目して行きたい。第3図に1968年以降の男鹿の傾斜変化およびこの期間に起こった東北地方北部及びその周辺の地震・火山活動を示す。



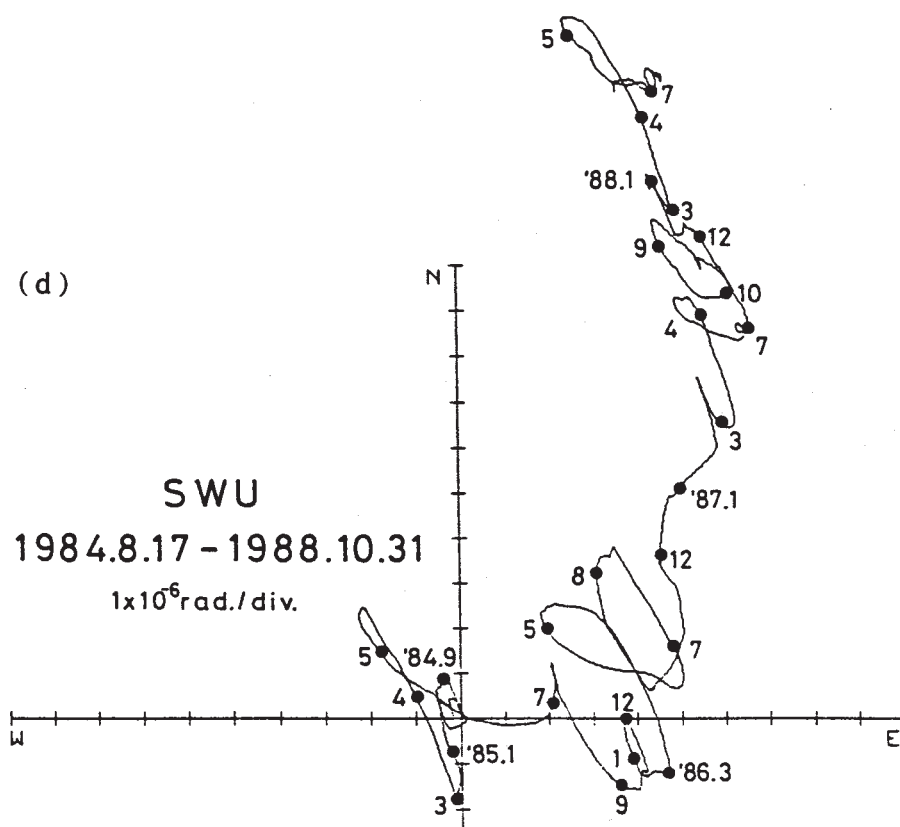
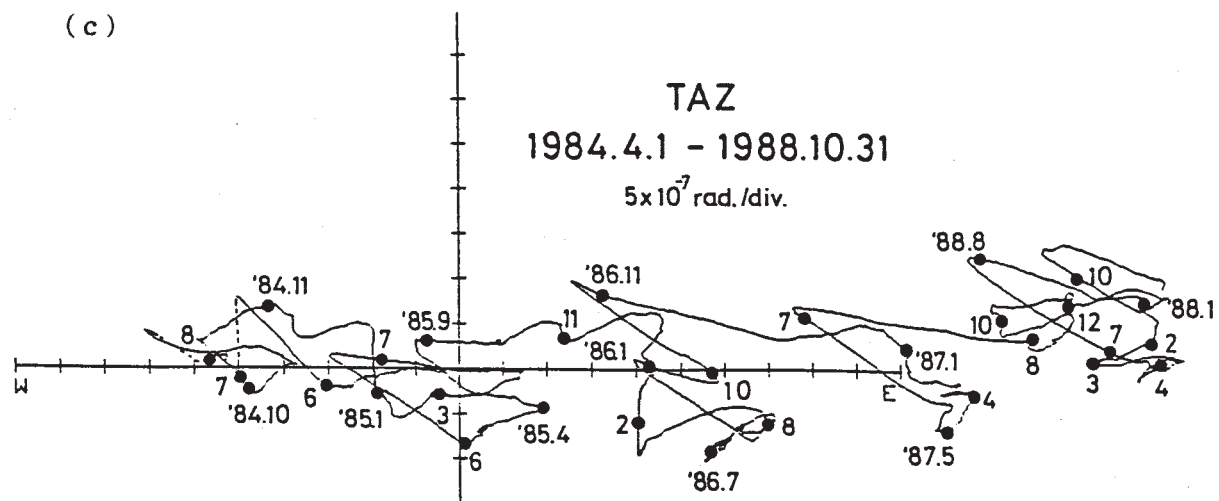
第1図 観測点配置

Fig. 1 Locations of observation stations.



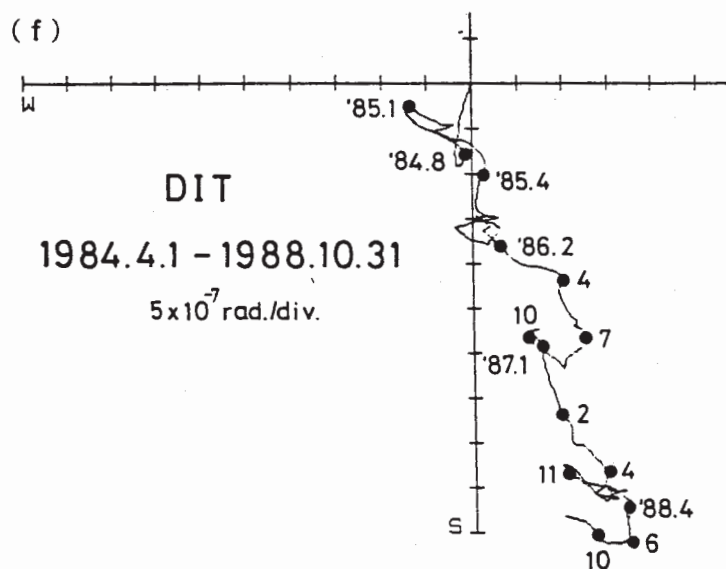
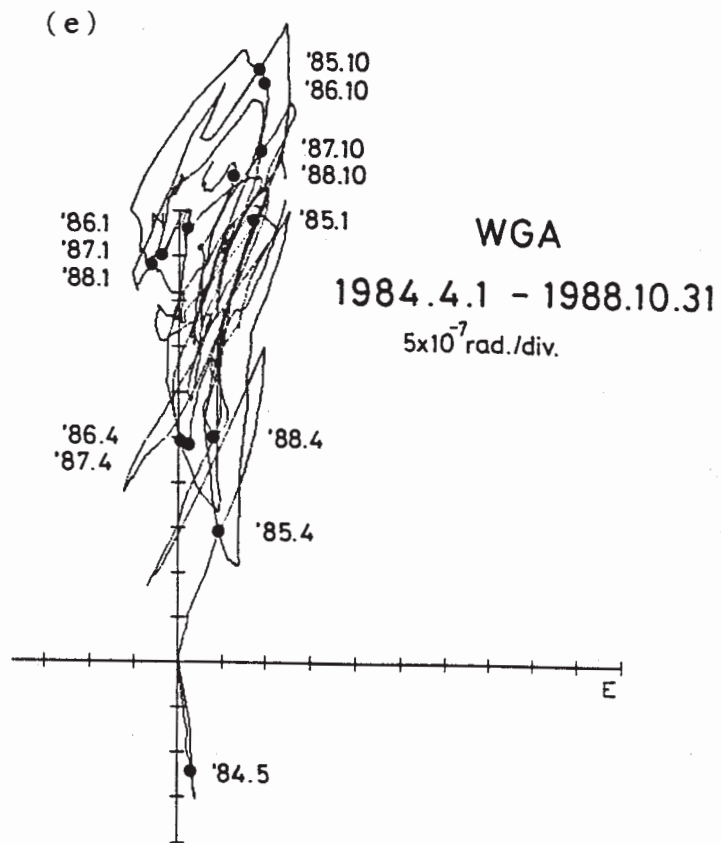
第2図 地殻変動観測所の水管傾斜計により観測された傾斜変化 (1984年4月～1988年10月) (a)男鹿(OGA), (b)仁別(NIB), (c)田沢湖(TAZ), (d)沢内(SWU), (e)和賀(WGA), (f)大東(DIT), (g)気仙沼(KSN), (h)姫神(HMK), (i)宮古(MYK), (j)三陸(SNR), (k)北阿武隈(KTA)

Fig. 2 Tilt vector plot derived from watertube tiltmeter observation (April, 1984 - October, 1988).
(a) OGA, (b) NIB, (c) TAZ, (d) SWU, (e) WGA, (f) DIT, (g) KSN, (h) HMK, (i) MYK, (j) SNR, (k) KTA.



第2図 つづき

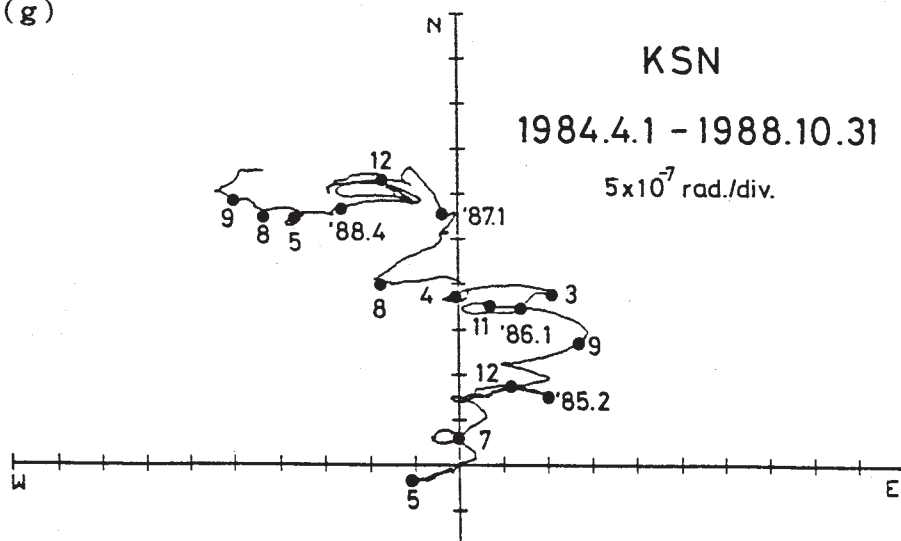
Fig. 2 (Continued)



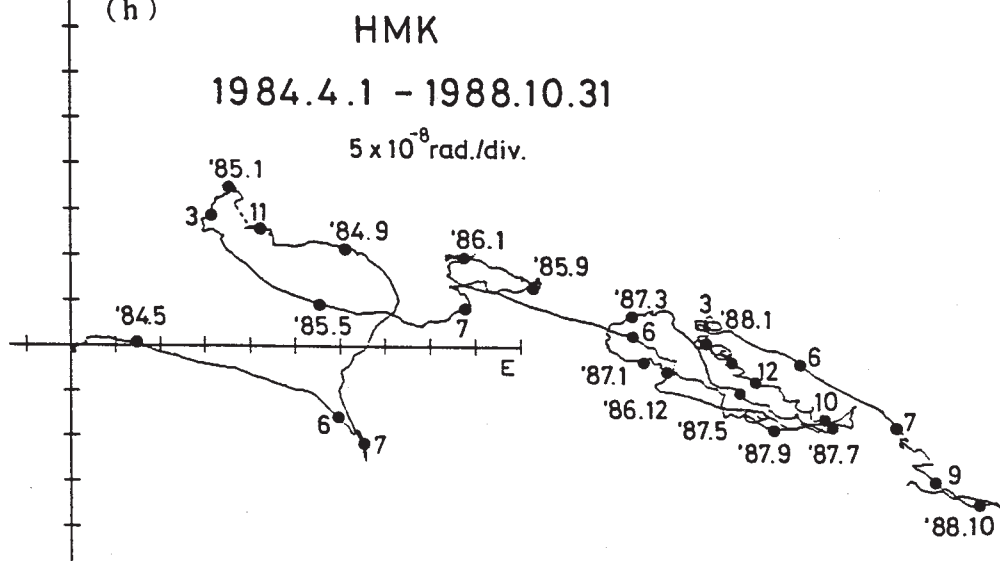
第2図 つづき

Fig. 2 (Continued)

(g)

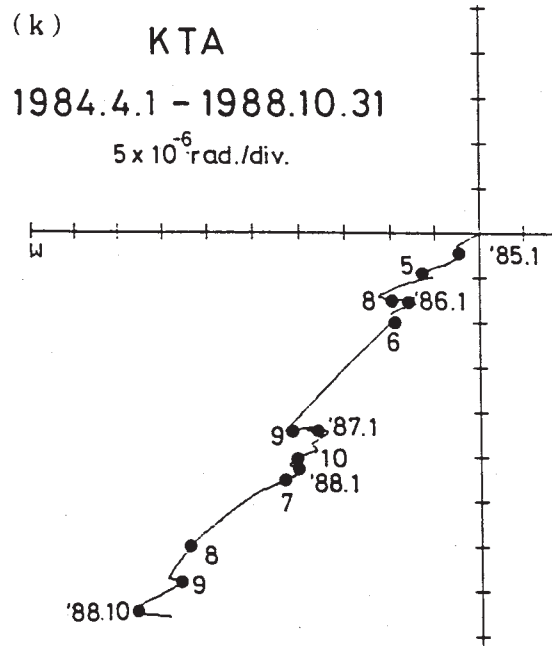


(h)



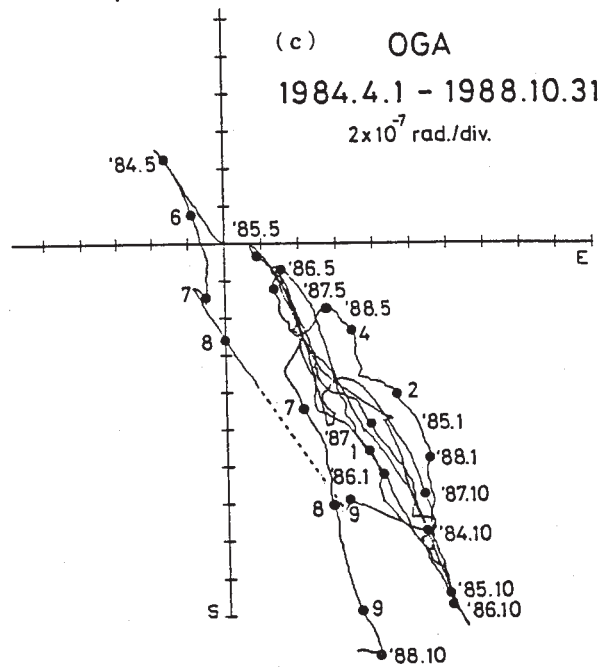
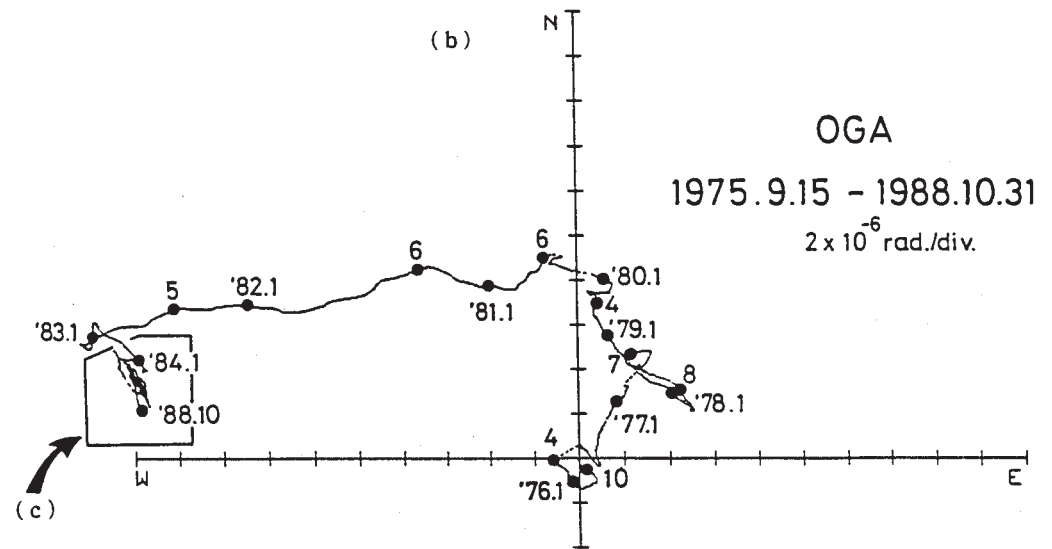
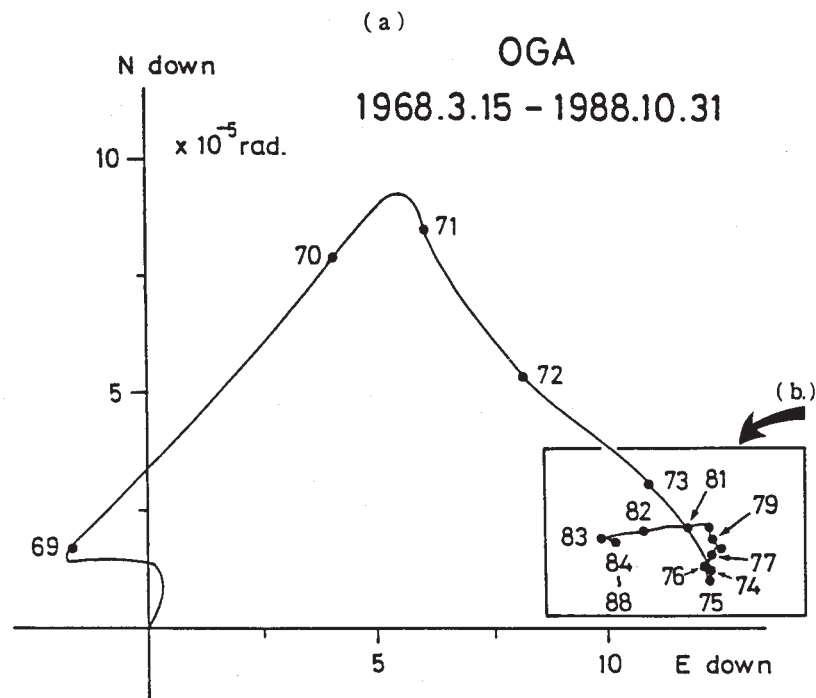
第2図 つづき

Fig. 2 (Continued)



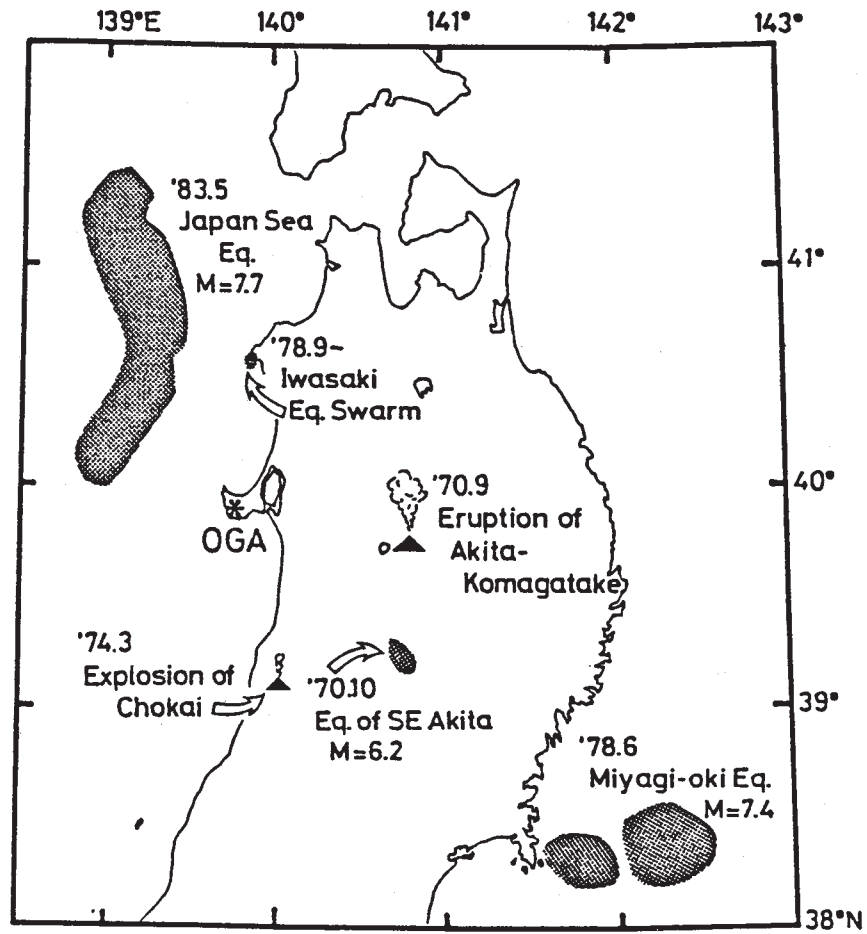
第2図 つづき

Fig. 2 (Continued)



第3図 男鹿観測点(OGA)の水管傾斜計により観測された傾斜変化
(a)1968年3月～1988年10月, (b)1975年9月～1988年10月,
(c)1984年4月～1988年10月

Fig. 3 Tilt vector plot for OGA station derived by watertube tiltmeter observation.
(a) March, 1968 - October, 1988.
(b) September, 1975 - October, 1988.
(c) April, 1984 - October, 1988.



第4図 1968年以降東北地方北部及びその周辺に起こった地震・火山活動

Fig. 4 Major Seismological and Volcanological events occurred in and around northern Tohoku district from 1968.